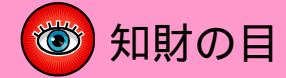


知財政策と研究開発政策の連携

- 「知財の目」で研究開発をみる -

平成20年2月22日
特許庁

知財政策と研究開発政策の連携 - 「知財の目」で研究開発をみる -



1. 研究開発の意義と知財政策との連携の必要性

国際的な知の創造の拠点として日本が世界をリードすると共に、日本の研究開発の競争力を高め、イノベーションを興していくためには、研究開発投資を効果的に行うことが必要である。

iPS細胞の例にみられるように、**研究開発の過程においては、論文の競争と知財の競争が重なり合いながら起こっていて**、どちらの競争にも勝利をおさめなければ、世界をリードしていくことはできない。

したがって、研究開発と知財を常に一緒に結びつける、**知財政策と研究開発政策との連携**が必要である。

2. 研究開発の入口 - 研究開発プロジェクト立案段階 - での「知財の目」

< 研究成果と経済・社会をつなぐ知財の視点 >

研究成果と経済・社会をつなぐ知財の視点が、研究開発の入口である**研究開発プロジェクトの立案段階から必要**である。

< 研究開発立案段階での知財の目 >

技術、社会・経済的な側面のみならず、**知財の切り口で研究開発を捉える「知財の目」**をもって政策立案を行うことが重要である。

< 研究資金配分における知財の目 >

研究資金の配分の際、場合によっては**研究プロジェクトの知財戦略・知財ポートフォリオ**を描くこと、そのための人材の投入も重要。

3. 知財ポートフォリオと研究開発の促進

< 論文と知財 > 研究開発を通じたイノベーションの実現に向け、**論文のみならず知財についても戦略的に取り組むことが必要**である。

< 知財におけるポートフォリオ等の特許戦略の重要性 > **コアの部分だけでなく周辺部分も特許としておさえ、戦略的な知財ポートフォリオを構築**することが重要である。また、個々の特許を取得する際にも、単に権利化を目指すのではなく、**出願段階や審査段階で**

権利化後にどのように活用されていくのかを見極めつつ権利範囲を決定していくことが重要である。

< 組織を越えた連携と知財の取扱 - パテントプール・コンソーシアム > 研究開発によっては**既存の組織を越えた連携**も必要、その際、各研究成果から生まれる個々の知財を知財群としてまとめる**パテントプールやパテントコンソーシアムの検討**も必要である。

< 戦略的ライセンスポリシー > ライセンス戦略としては、例えば、リサーチツール特許については**合理的な対価でのライセンス**が求められ、リサーチツール特許統合データベース等の活用も必要である（「ライフサイエンス分野におけるリサーチツール特許の使用の円滑化に関する指針」平成19年3月1日総合科学技術会議）。他方、事業につながる可能性の高い特許については、戦略的ポートフォリオを構築したうえで、**利益を上げることを念頭においたライセンス戦略**をとることも重要である。

< 知財政策と研究開発政策の連携と知財の目 > 知財政策と研究開発政策とを連携させ、「知財の目」で研究開発を捉えることにより、これまで為し得なかった日本発のイノベーションを興していく。

上記内容について、「イノベーションと知財政策に関する研究会」（特許庁）にて検討中。

知財政策と研究開発政策の連携 - 「知財の目」で研究開発をみる - 具体的な政策検討(1)



【研究開発における再認識】

研究開発の過程においては、論文の競争と知財の競争が重なり合いながら起こっている。

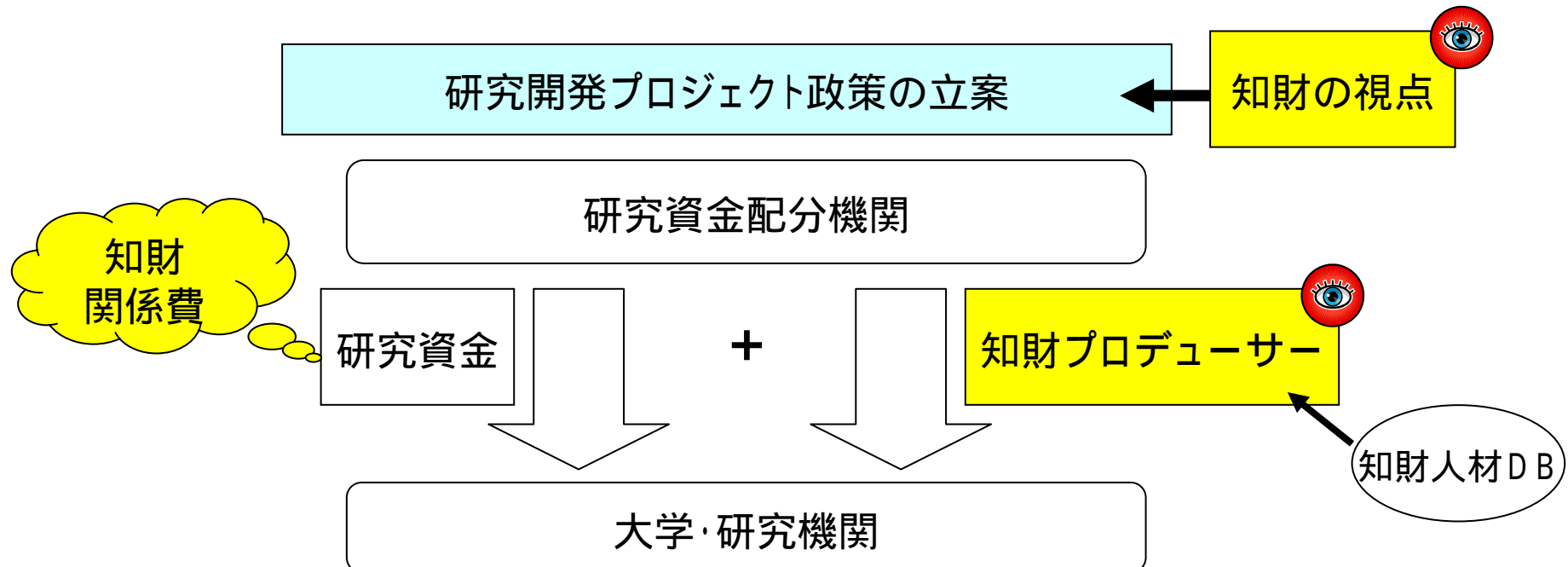
【検討のポイント：研究開発の入口にて】

研究開発プロジェクトの政策立案の際に知財の視点が必要ではないか。

研究開発プロジェクトの知財戦略・知財ポートフォリオを構築するための人材として「知財の目」をもつ知財プロデューサーの投入が必要ではないか。

「知財の目」をもつ人材のデータベースが必要ではないか。

研究開発資金の中で、知財経費についても必要な場合は支出できるようにしておくべきではないか。



知財政策と研究開発政策の連携 - 「知財の目」で研究開発をみる - 具体的な政策検討(2)



【検討のポイント：研究開発の出口にて】知財戦略・ポートフォリオの構築

既存の組織を越えて連携しながら研究開発を進める体制を構築する場合には、知財プロデューサーの投入等により、知財の取扱をしっかりと決めることが必要ではないか。

ライフサイエンス分野の研究ツール特許の場合、合理的な対価でライセンスされるようにデータベースを活用する取組を普及することが必要ではないか(「ライフサイエンス分野における研究ツール特許の使用の円滑化に関する指針」平成19年3月1日総合科学技術会議)。

パテントプールやコンソーシアム等、知財を共有財産化し価値を高める仕組みの活用も場合によっては必要ではないか。

論文情報と特許情報をシームレスに検索しアクセスできる環境の整備が必要ではないか。

研究開発において知財の問題とならないようにしっかり記録を残す等の管理が必要ではないか。

研究開発全般を「知財の目」で見ることができる人材の育成が必要ではないか。

技術移転機関等の知財関連部署が研究開発全般を「知財の目」でみる機能を強化することも必要ではないか。

研究開発において知財戦略・ポートフォリオを構築するための基盤整備

